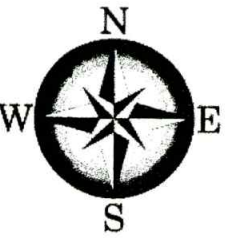


8月度 悠遊例会 『平野郷・13口地蔵めぐり』

【実施日】 平成30年8月19日(日曜日)
 【コース】 JR久宝寺～久宝寺緑地～畠山政長墓所～正覚廃寺～平野公園～
 地蔵めぐり(13ヶ所)～全興寺～大念仏寺～杭全神社～JR平野駅
 【認定距離】 10キロ 14時30分頃 到着予定

当協会は団体歩行を行いますので、リーダー・アンカーの指示に従って下さい。



ゴール
お疲れさん!



スタート
JR久宝寺駅



- ① 河骨池口地蔵
- ② 市ノ口地蔵
- ③ 樋之尻口地蔵
- ④ 出屋敷口地蔵
- ⑤ 田畑口地蔵
- ⑥ 流口地蔵
- ⑦ 堺口地蔵
- ⑧ 西脇口地蔵
- ⑨ 田辺道西脇口地蔵
- ⑩ 小馬場口地蔵
- ⑪ 馬場口地蔵
- ⑫ 泥堂口地蔵

「西日本豪雨救援募金」結果報告

当協会が7月12日から8月4日迄実施した救援募金活動には、
多くのウォーカーの皆様より

総額 **67,451 円**

のご支援を戴きました。

全額を8月7日「読売光と愛の事業団」に送金しました。
ご協力ありがとうございました。

大阪府歩け歩け協会

「これからの 例会」

| | | | | | |
|-------------|----|--|----|---------|--------------------------|
| 8/26 (日) | 楽特 | まぼろしの浪華の名橋からとんぼりリバーウォークを行う JR大正駅～大正橋公園～千代崎橋～鯉座橋～あみだ池大黒～四ツ橋～とんぼり リバーウォーク～生玉公園(中間ゴールは地下鉄谷町九丁目駅)～大坂城公園～JR森ノ宮駅 | JR | 7 10 | JR大阪環状線 大正駅 9:45 |
| 9/2 (日) | 悠遊 | 白川・琵琶湖疏水から哲学の道 JR京都駅中央口～東本願寺～宮川通り～花見小路～白川疎水～琵琶湖疏水～南禅寺～ 哲学の道～平安神宮～京都御苑～JR二条駅 | JR | 14 | JR京都線 京都駅 中央口 9:45 |
| 9/13 (木) | 平日 | 古代ロマンあふれる古市古墳群めぐり 近鉄藤井寺駅～ブクダ公園～辛國神社～葛井寺～中津姫陵～道明寺天満宮～菅田八幡宮～ 応仁天皇陵古墳～峰塚公園～清寧天皇陵～白鳥陵～安徳天皇陵～近鉄古市駅 | | 12 | 近鉄南大阪線 藤井寺駅 9:45 |

「シルバー川柳」
本性が出ると言うからボケられぬ

- ウォーキングマナー五ヶ条
1. やあ!おはよう明るい挨拶さわやかに
 2. 信号で、あわてずあせらず待つ余裕
 3. ひろがるな、参加者だけの道じゃない
 4. 自分のゴミ、自分の責任持ち帰り
 5. 歩かせて、いただく土地に感謝して

ご注意
 当協会のウォーキング参加中の事故につきましては、
 参加費に含まれる傷害保険の補償範囲となります。
 十分な準備運動をしてケガや交通事故等には十分注意し、無理をしないように歩行してください。

お名前 _____

大阪府歩け歩け協会
 〒530-0012 大阪市北区芝田2-8-15
 北梅田ビル211号
 TEL&FAX 06-6359-7025
<http://www.owa.gr.jp>

■平野郷

平野郷は戦国時代、堺と並ぶ自治都市(町人の自治による都市)で、自衛や灌漑、洪水等の調整池としての役割を持たせるために町の周囲を環濠によって取り囲んだ「環濠都市」の形をしていました。

集落の周囲に13ヶ所の木戸口を設けて各地への街道に通じ、交通の要所としての地位を得ていた。また、杭全神社のあるあたりは環濠が平野川に通じており、水運の拠点となっていた。

このように水運・陸運双方の恩恵を受けるようになり、河内木綿の集散地として発展した。

平安時代の初期、征夷大將軍・坂上田村麻呂の次男で平野の開発領主となった坂上廣野麿になちなみ「広野」と呼ばれ、それが転訛して「平野」となったと伝えられている。

平野郷は明治後、住吉群(後に東成郡)平野町として存立し、大正14年(1925年)4月1日に大阪市に編入された。

■平野郷・13口地蔵堂

環濠集落であった平野郷の周囲には13の木戸口が設けられ、各門の傍らには地蔵堂や遠見櫓、門番屋敷があったとされ、地蔵堂は門を出る人々にとっては道中の加護を祈り、外からの変事にはこの門でもって退散させようとした祈願の表れであったといわれている。

(注)各地蔵の番号は本日のウオークで廻る順番です。

① 河骨池口地蔵(こおのいけぐちじぞう)

この地蔵堂は玉造、天満や守口方面に通じる河骨池口門の傍らにあったもので、道路の西側は江戸時代から明治時代にかけて平野川を運行していた柏原船の船入(発着場)であった河骨池跡である。この周辺を俗に市の浜といい、問屋、宿屋などが、立ち並び船会所もあって大層賑わったところであった。

② 市ノ口地蔵(いちのぐちじぞう)

この地蔵堂は市ノ口門の傍らにあったもので、大門の市ノ口は久宝寺、八尾から信貴山へ通じる出入口であった。地蔵堂の位置は国道25号線の拡張に伴い少し移動されている。13口中、最も大きな地蔵で堂前の石燈籠に享保21年(1736)の銘がある。

③ 樋之尻口地蔵(ひのじりぐちじぞう)

樋之尻口門は奈良街道や久宝寺・八尾につらなるもので、木戸としては大きい方であった門の側には、いずれも地蔵堂や遠見櫓、門番屋敷があった。この地蔵堂も樋之尻口門の傍らにあったもので郷から外へ出るときは、一身の加護を祈り、外からの変事はこの入口で退散させようとした祈願のあらわれであろう。

④ 出屋敷口地蔵(でやしきぐちじぞう)

この地蔵堂は出屋敷口門の傍らにあったもので、その名は野堂町の出屋敷地区でもあったことに由来。田畑口とともに藤井寺や道明寺に通じた町民の辰巳墓地への参道でもあった。

⑤ 田畑口地蔵(たばたぐちじぞう)

この地蔵堂は田畑口門の傍らにあったもので、藤井寺、道明寺から南河内、大和に通じる木戸口であった。行者像が祀られているのはこの出入口が大峯山への参詣道であることを示している。

⑥ 流口地蔵(ながれぐちじぞう)

この地蔵堂は流口門の傍らにあったもので、大門であった木戸口から南下する道は中高野道と称し喜連、瓜破を経てかつて平野川の水源であった狭山池で堺から来る西高野道と合流する信仰の道であった。

⑦ 堺口地蔵(さかいぐちじぞう)

この地蔵堂は堺口門の傍らにあったもので、中野から鷹合を経て住吉や堺に通じる出入口でもあった。地蔵堂の西側の道は環濠跡である。

⑧ 西脇口地蔵(にしわきぐちじぞう)

この地蔵堂は南口地蔵とも呼ばれ西脇口(南口)のわきにあったもので、この木戸口より南下すると、堺口の住吉・堺へ行く道と合流する。地蔵堂前の東西の道は環濠跡である。

⑨ 田辺道西脇口地蔵(たなべみちにしわきぐちじぞう)

この地蔵堂は田辺道西脇口門の傍らにあったもので、田辺方面へ通じる木戸口であった。環濠があった頃、地蔵堂は環濠を背に東向きに建っていたが、昭和初期環濠を埋め道路を西へ伸長する際、南の道へ移設され北向きとなった。

⑩ 小馬場口地蔵(こばばぐちじぞう)

この地蔵堂は小馬場門の傍らにあったもので、田辺や平野郷の散郷であった今在家(今川)・新在家(杭全)などの出入口であり、大念仏寺への参詣道でもあった。

⑪ 馬場口地蔵(ばばぐちじぞう)

この地蔵堂は馬場口門の傍らにあったもので、大門の木戸口は泥堂口とともに奈良街道の大阪天王寺方面に接続して大阪方面から大念仏寺への参詣口でもあった。

⑫ 泥堂口地蔵(でいどうぐちじぞう)

この地蔵堂は泥堂口門の傍らにあったもので、奈良街道の大阪天王寺方面に通じる大門をもって木戸口として、13口中最も重要な出入口であった。

⑬ 社内入口地蔵(しゃないりぐちじぞう)

平野郷13口のうち、一ヶ所だけお地蔵さんがおられない口があります。そこが、杭全神社の入口である社内入口です。社内口地蔵は現在全興寺に安置されている。

■含翠堂跡(がんすいどうあと)

平野七名家の一人土橋友直らによって享保2年(1717)に創設された大阪初の民間学問所である。

■杭全神社(くまたじんじゃ)

杭全神社は平安時代の初期、貞観4年(862)に坂上田村麻呂の子、当堂(とうどう)が素戔嗚尊(すさのおのみこと)を氏神として祀ったのが始まりといわれ、平野一円の守護神(第一殿)として信仰をあつめた。本殿は第一殿を含む三殿からなり、第三殿は建久元年(1190)熊野信仰の隆盛に伴って熊野権現を勧請したもの。第二殿は元享元年(1321)後醍醐天皇の勅命により伊弉諾尊(いざなぎのみこと)を祀ったもの。この三殿は国の重要文化財に指定されている。杭全とは平野郷のかつての地域呼称だそうです。